

かつてないスピードで社会が変化する、歴史の転換期。

そんな時代に、大学が果たすべき役割とは何でしょう。

私たちは、いまこそ「治道家」が求められていると考えます。

治道家(ちどうか)とは、広い視野で時代の変化を捉え、

社会を良い方向に導く、高い倫理観を備えたリーダーのこと。

そしてこの「治道家の育成」こそ、約100年前に

千葉商科大学が掲げた教育の理念です。

2025年春、千葉商科大学は、次代の治道家育成に向けて、

これまで培ってきた“社会のための実学教育”を

さらに未来志向の学びへとアップデートさせます。

学部・学科の枠を超えて自由に好奇心の翼を広げ、

企業や地域からも学びながら、大きく成長できる環境で、

広く深い教養と、倫理観に根ざした「良識」を育みます。

100年後も、社会から必要とされる大学であり続けるために。

この春、千葉商科大学から、新しい実学が始まります。

# 治道家のDNAが、 未来を創る。

千葉商科大学第9代学長 宮崎緑

